

「第 23 回海洋深層水利用学会全国大会 海洋深層水 2019 鹿児島大会」報告

研究発表企画委員会 委員長 清水 勝公

「海洋深層水 2019 鹿児島大会」が 2019 年 10 月 10 日（木）、鹿児島大学稲盛会館キミ&ケサメモリアルホールにおいて開催されました。なお、大会は例年と同様に 3 日間で行われる予定でしたが、見学場所が深層水関連施設のある下甕島となったことから研究発表会を 1 日、見学会を 2 日間で行う予定でした。しかし、台風 19 号の来襲により見学会が取り止めとなり、研究発表会の 1 日となったものです。大会の概要は以下の通りです。

〈第 23 回海洋深層水利用学会全国大会概要〉

主催：海洋深層水利用学会

共催：鹿児島海洋深層水協議会

鹿児島大学産学・地域共創センター

後援：文部科学省・水産庁・鹿児島県・薩摩川内市

協賛：甕島商船(株)、(株)シェルフィッシュ甕、(株)センターフーズ、環境システム(株)、環境バイオエンジニアリング(株)、ビーエルテック(株)、(株)ニチモウマリカルチャー、南国殖産(株)、こしき海洋深層水(株)

開催日時：2019 年 10 月 10 日（木）

開催場所：鹿児島大学稲盛会館キミ&ケサメモリアルホール

開催内容：

- ・ 研究発表：15 題
海洋・水質／生物・水産／農業・畜産関連／健康・医療関連：9 題
（座長：前田広人 鹿児島大学産学・地域共創センター長）
- 利活用システム関連／施設関連他：6 題
（座長：野村 道康（(株)ディーエイチシー海洋深層水研究所主任）
- ・ ポスター発表：3 題（国内：1 題、韓国：2 題）
- ・ 特別講演：1 題

本大会の参加者に関しましては台風襲来と言う特殊な状況下に係らずキャンセルもなく全参加予定者の出席を得ました。その参加状況は会員 57 名、非会員 38 名、学生 5 名、スタッフを含めると 120 名を超える参集を得て実施されました。なお、海外からの参加者は韓国：4 名、台湾：11 名の参加を頂きました。

開催の反省としまして、研究発表数に関しましては発表日数が 1 日であったことから 15 題となりました。次年度以降は例年の 25 題以上の発表をキープして行きたいと考えます。

特別講演は 1 題、井上興治様（NPO 海ロマン 21 理事）より「奄美の離島における海洋温度差発電構想」と題して海洋深層水の省エネ利用への有効性に関して基調口演頂きましたが、今後も、開催地の特色や深層水関連情報等の共有化を図るための特集を組み、数題の発表をキープして行きたいと考えます。また、ポスター発表については台湾及び韓国の各学会の協力を得て、海外からの発表・交流の拡大を検討して行きたいと考えます。

加えて本大会において、研究発表の申し込みを行ったが、大会事務局側の受付上の見落としにより、結果として発表が出来なかったと言う不手際が発生しました。本件に関しては不具合が発生した背景に対する反省から次年度の会告案内に以下の注意事項を掲載することで再発の防止を図りたいと考えています。

- ・ 申込みの用紙は「1 人 1 枚」とし、複数人員を 1 枚で申請することを禁止する。

- ・ 申込み書の記載要領として、研究発表の意向が目立つよう、研究発表タイトルには未定状態でも「仮称タイトル」を記入の上申込み頂く。
- ・ 研究発表申込みの受付に際し、大会事務局からの返信メール “大会参加と研究発表を受けました” と返信していますが、返信メールに「研究発表を受けました」の記載がない場合は、申込者に再確認のメールをお願いする。

本件に関してご意見等がありましたら、研究発表企画委員会までメール頂きたいと思ひますし、ご迷惑をおかけしました会員には本紙を通じましてお詫び申し上げる次第です。

大会開催に当りましては開催を受入れていただきました鹿児島大学及び鹿児島海洋深層水協議会の皆様には多大なご協力を得て準備・運営することができましたことを、本紙面を通じましてお礼を申し上げます。また、(株)薩摩川内市観光物産協会下甕島支店の皆様方にも多大なご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

最後に、会員の皆様方には、日頃、本学会活動にご理解とご協力を賜りまして、当大会の開催責任者として感謝申し上げます。

次年度開催地に関しましては現在調整中ですが「佐渡」を検討しています。スケジュール調整の上、多数の御参集を頂きますようお願い申し上げます。

以上